

これからの公共デザインを考える ～組織を超えた自治体ネットワークの構築に向けて～

【開催日時】

平成26年12月20日 土

13:30~16:30 (開場13:00~)

【会場】

大阪市立大学

文化交流センター ホール

(大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階)

【会費】(定員120名)

シンポジウム 参加費:500円

交流会 参加費:4,000円



第1部：基調講演／13:35～14:35

「公共デザインは誰が担うのか」

篠原 修

(特定非営利活動法人 GS デザイン会議代表、東京大学名誉教授)

第2部：シンポジウム／14:45～16:30

「自治体職員のやる気と行動、モチベーションがまちを変える」

話題提供1 日向市駅周辺の取組

(日向市駅周辺地区における景観デザインマネージメント)

話題提供2 木津川遊歩空間の取組

(地域とデザイナーが連携する新しい公共空間設計)

パネリスト／和田 康之 (日向市総合政策部総合政策課)

川上 卓 (大阪府都市整備部河川室河川整備課)

南雲 勝志 (ナゴモデザイン事務所)

篠原 修 (特定非営利活動法人 GS デザイン会議代表、東京大学名誉教授)

コーディネーター／久保田 善明 (京都大学大学院工学研究科准教授)

申込先・お問い合わせは、下記メールアドレスへご連絡ください

GSデザイン関西自治体連絡会議事務局 gs_k_renrankaigi@yahoo.co.jp

※申込の際は、氏名、所属、電話番号、メールアドレスをお送りください。

(メールアドレス内の__はアンダーバーです)

※交流会に参加の場合は、「交流会参加」も記入願います。

※申込締め切り:平成26年12月5日(金)

GS デザイン関西自治体連絡会議 設立記念シンポジウム

これからの公共デザインを考える～組織を超えた自治体ネットワークの構築に向けて～

昨今、総合的なまちづくりや空間デザインへの要請に応えるためには、土木、建築、都市計画、造園、インダストリアルデザイン、歴史などの分野を超えた専門家間の協働体制を確立することの重要性がますます高まっています。そのための基盤として平成17年に発足した「GSデザイン会議」において、今回、自治体職員が、まちづくりを成功裏に導くための知恵を共有するネットワークを自治体間および内部に広げるとともに、戦略を練るための会議を行う場として、「GSデザイン関西自治体連絡会議」を設立することとなりました。

まちづくりを成功裏に導くには、自治体職員の意識が不可欠です。設立を記念する本シンポジウムでは、GSデザイン会議の理念をより幅広く多くの自治体職員の方々に広め、まちづくりの志ある自治体職員のネットワーク構築を目指すとともに、民間のアーキテクト、デザイナー、エンジニア、プランナー、歴史家等とのコラボレーションの必要性を共有します。

講師紹介 · · · · ·

篠原 修 (GSデザイン会議代表、東京大学名誉教授)



専門: 景観デザイン、設計・計画思想史

略歴: 栃木県生まれ、神奈川育ち。1971年東京大学大学院終了後、(株)アーバンインダストリー入社。その後、東京大学農学部助手、旧建設省土木研究所主任研究員などを経て、1989年より東京大学工学部助教授。1991年より東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授。2006年に東京大学を退官し、その後、政策創造研究大学院大学院教授。2011年に退官。

著書: 「土木デザイン論」東京大学出版会(2003)「景観用語辞典」彰国者(2007)など

パネリスト紹介 · · · · ·

和田 康之

(日向市総合政策部総合政策課)

宮崎県生まれ。1990年日向市役所入庁。2002年～2005年宮崎県土木部都市計画課へ出向し、日向市駅連続立体交差事業のサポートとシンポジウム、小学生向けのまちづくり授業等、ソフト面の啓発に努める。日向市へ戻ってからは、駅周辺土地区画整理事業での駅前広場、キャノピー、交流広場整備を担当。

現在、新庁舎建設推進室で、新庁舎建設事業を担当。

川上 卓

(大阪府都市整備部河川室河川整備課)

京都市生まれ。1991年大阪府入庁。主に府内各河川の治水計画立案を担当。2001～2002年一般財団法人国土技術研究センターへ出向し、国の都市型水害対策の施策立案に従事。2010～2013年「水都大阪」の河川空間を利用した都市魅力創出としての、河川敷整備やライタップ事業を担当し、土木インフラによる景観づくりに苦戦する。

現在、都市整備部河川室でダム事業を担当。



南雲 勝志

(ナグモデザイン事務所)

新潟県六日町生まれ。東京造形大学室内建築科卒業後、永原淨デザイン研究所を経て、1987年ナグモデザイン事務所設立。土木、景観のデザインから家具、プロダクト、照明デザインなど様々な分野で活動しながら、社会やまちづくりにおけるデザインの可能性を探る。2004年に「日本全国スギダラケ倶楽部」を設立し、杉の文化を切り口にした行脚を全国で行なうようになる。

主な受賞: グッドデザイン賞 金賞

土木学会デザイン賞 最優秀賞。



コーディネーター

久保田 善明

(京都大学大学院工学研究科准教授)

京都市生まれ。1996年石川島播磨重工業(現・IHI)入社。橋梁の設計・製作施工・技術開発に携わる。その後、(株)オリエンタルコンサルタンツで国際業務等に従事し、2009年京都大学経営管理大学院(ビジネススクール)准教授。様々なデザイン分野を横断的にとらえて経営学的視点で考える「デザイン経営論」を担当。ベストティーチャー賞受賞。2013年より現職。土木設計やデザインマネジメントに関する研究・教育を行っている。